

(仮訳)

プレス・リリース

2023年3月23日

バーゼル銀行監督委員会は、最近の市場動向をレビューし、気候関連金融リスクに関する作業を前進させ、バーゼル・コア・プリンシプルの改訂を検討

- バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、直近の銀行及び市場の動向をレビューする。
- 気候関連金融リスクに関する銀行開示枠組み案の策定作業を進める。
- 「実効的な銀行監督のためのコアとなる諸原則」の改訂を前進させる。

バーゼル委は、3月14日にバーチャルで、また、3月22-23日に香港で会合を開催し、最近の市場動向やグローバルな銀行システムに対するリスク及び関連する脆弱性について状況把握（ストックテイク）を行うとともに、様々な政策・監督上の取組みについて議論した。

グローバルな銀行システムに対するリスク及び脆弱性

バーゼル委は、直近の経済及び金融市場の動向を踏まえ、グローバルな銀行システムの見通しについて議論した。

直近の出来事は、実効的な銀行のガバナンス及びリスク管理実務、頑健な規制上の基準、先取的なクロスボーダーの協力に支えられた強固な監督に基づく強靱なグローバルな銀行システムが重要であることを一層強調している。バーゼルⅢ改革は、世界金融危機以来、グローバルな銀行システムが様々なショックを吸収し、信用力の高い家計や企業への貸出を継続することを支援してきた。2011年以降、銀行のレバレッジ比率は3.5%から6.5%に上昇し、リスクベースの普通株式等 Tier1 比率は7%から13%に改善した。流動性リスクプロファイルもこの間強化され、銀行の平均の流動性カバレッジ比率（LGR）及び安定調達比率（NSFR）は、それぞれ140%及び125%となった。

高インフレ、低成長、地政学的緊張のリスクは、銀行にリスク管理の課題をもたらしている。何年にも亘る異例の低金利が家計や企業のレバレッジ拡大を支えた。大半の中央銀行がインフレ抑制に向けて利上げする中、借り手は債務返済負担の急増に直面している。資産市場における広範な価格変更も銀行を更なるリスクにさ

らす可能性がある。

従って、銀行及び監督当局は、グローバルな銀行システムが強靱であることを確保するために、今後の見通しの変化に注意を払う必要がある。バーゼル委は、銀行及び市場の動向を引き続き注意深くモニタリングし、金利上昇がグローバルな銀行システムに及ぼす金融安定上のリスクを評価する。

加えて、バーゼル委は、教訓を得ることを目的として、最近の出来事から生じる規制・監督上の含意についてストックテイクすることに合意した。

より一般的には、バーゼル委メンバーは、グローバルな銀行システムの強靱性を更に強化し、国際的に活動する銀行に規制面での公平な競争環境を提供するために、バーゼルⅢ枠組みの全ての要素を完全かつ整合的な形で、可能な限り早期に実施するという期待を全会一致で再確認した。

気候関連金融リスク

バーゼル委は、気候関連金融リスクに関する第三の柱の開示枠組みの策定に関連する作業について議論した。この枠組みの目的は、健全性リスクに関する追加的な銀行の開示を提供することである。この枠組みは、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）やその他の当局によって並行して進められている開示のイニシアティブを補完し、相互運用を可能とするものである。バーゼル委は、本年末までに、提案された枠組みに関する市中協議文書を公表する予定である。

バーゼル・コア・プリンシプル

バーゼル委の2023-24年の[作業計画](#)に記載されているように、バーゼル委は、2012年の前回の改訂以降の監督上の知見と構造的な変化を参考に、[実効的な銀行監督のためのコアとなる諸原則](#)（バーゼル・コア・プリンシプル）を改訂している。

バーゼル委メンバーは、バーゼル・コア・プリンシプルの構成及び内容の見直しに関するこれまでの進捗状況についてストックテイクした。バーゼル委は、2023年半ばまでに、バーゼル・コア・プリンシプルの改訂について市中協議することに合意した。

暗号資産

バーゼル委は、昨年公表した銀行の暗号資産エクスポージャーに係るプルデンシヤルな取扱いに引き続き、暗号資産がグローバルな銀行システムにもたらすリスクの評価及び軽減を継続するための作業計画を承認した。これには、パーミッションレス型ブロックチェーンの取扱いや「グループ1」ステーブルコインの適格基準

に関するものを含む、健全性規制上の取扱いについての焦点を絞った一連の見直しが含まれる。バーゼル委はまた、ステーブルコイン及びトークン化された預金の潜在的な発行者としての銀行の役割、暗号資産のカストディ業務、暗号資産エコシステムの他のノードとの相互関連性を含む、銀行の暗号資産に関する活動及びエクスポージャーを引き続きモニタリングする。

バーゼルⅢ改革の実施

バーゼル委は、整合性評価プログラム（RCAP）の一環として、南アフリカにおける安定調達比率（NSFR）及び大口エクスポージャーの枠組みの実施状況に関する審査報告書をレビューし、承認した。本報告書は4月に公表予定である。

銀行監督者国際会議

バーゼル委はまた、次回の銀行監督者国際会議（ICBS）が、バーゼル委の50周年に合わせて、2024年4月24-25日にバーゼルで開催されることを発表した。ICBSに関する追加的な情報は、いずれ提供される予定である。